

第5回平塚市社会教育委員会議要旨

日 時	令和7年6月4日（水）15時15分～17時00分
会 場	平塚市美術館 ミュージアムホール
出席委員	渡邊委員、小島委員、鈴木委員、丸島委員、笹尾委員、國正委員、宮路委員 西田委員、飯田委員
欠席委員	比企委員、西郷委員
事務局	石川社会教育部長、石塚社会教育課長、鳥居中央公民館長、藤田中央図書館 長、浜野博物館長、小澤美術館長、上家美術館館長代理（管理担当）、勝山美 術館館長代理（学芸担当）、片野主管、木村主査、宮田主事補
傍聴者	なし

会議要旨

1. 新規事務局職員の紹介

今年度新たに配属された事務局職員2名の紹介をした。

2. 議事

○議長

議事に移る前に、美術館の施設見学の中で質問等あるか。

○副議長

ワークショップの人数や頻度はどの位か。また、事業の周知はどのような方法で行っているか教えてほしい。

○事務局

当日配付資料のP17～18に事業を掲載しております。令和6年度は39プログラムあり、キッズアートや赤ちゃんアートなどから展覧会に関連したワークショップや東海大学と連携した内容も実施している。

また、P18のスクールプログラムとして、市内外の団体（小・中・高校）の来館を受け入れており、令和6年度は20団体を受け入れていた。P19の対話による美術鑑賞事業・ボランティア育成では、ボランティア育成に加えて、小学校に学芸員が出向き、授業を実施した。

これらの事業の周知方法だが、広報ひらつかへの掲載のほか、市のLINE配信、X（旧ツイッター）、インスタグラムにより周知している。

現状、募集をすると多くのお申し込みをいただき、ほとんどの事業が抽選をしている状況である。また、夏休み中にワークショップまつりを今年は3日間アトリエ等を会場とし

て様々なワークショップが体験できるイベントを実施する予定である。

○副議長

ぬいぐるみおとまり会はどのような趣旨で開催しているものか。

○事務局

最近、X（旧ツイッター）でも話題になっており、「いいね！」の数も通常 20～30 程度が 500 以上になったりするほど人気がある。（ぬいぐるみの）キャラクターのファンが発信することで宣伝効果もあるのではないかと思います。

他の美術館ではあるが、音声ガイドを俳優の方がしており、その俳優の方のファン層が注目してくれるということがある。

○事務局

普段、美術館にあまり馴染みのない若年層を取り込む効果があると感じている。美術館に興味を持ってもらう、親しんでもらう意図があると学芸員から聞いている。

○事務局

美術館のハードルが高いと感じる方がいらっしゃるようで、親子で観覧に来て、しゃべってはいけないと思う方がいる。そのため、より親しみやすい施設となるよう段ボールを使った作品を展示したり、様々な試みをしている。公立美術館でもあるので、より幅広い層に美術館に親しんでもらいたい。

○副議長

現在展示されている「よみがえる絵画」の修復は、誰が行なったのか。

○事務局

日本画や油絵専門の修復家に依頼し、修復してもらった。

（１）美術館の連携事業等について

○事務局

連携事業では、夏休みに実施している三館コラボ事業を実施しているほか、図書館ボランティアによるおはなし会やザ・キャビンカンパニーの作品を文化芸術ホールのエントランスギャラリーやラスカにあるサクラ書店で展示したりしている。また、博物館と連携して中勘助に関する展示も実施した。

「おしゃべり美術館 ひらびあ一つま〜れ 10 周年記念展」では、市民参加者「ひらびあ一つま〜れ」のメンバーが中心となり、対話型鑑賞とこれまでの活動を紹介する展覧会を

開催した。

○事務局

P 23 には、団体向け研修・体験プログラムとして、12 プログラムを実施している。また、学芸員を目指す実習生を令和 6 年度は 9 人（6 月～12 月）を受け入れており、中学生（5 校 24 人）や高校生の職場体験も受け入れている。

○議長

社会教育施設の中で今期は図書館・博物館・美術館ともっと地域の団体とが連携して活用を図っていけるといいのではと考えている。既に様々な団体等との連携があるが、さらに市民や地域の団体がこれら 3 館と連携していくことを考えていけたらと思う。配付資料の P 5 には、私が神奈川県社会教育委員連絡協議会会誌に寄稿した文を載せているが、この中にも書いているように、3 館の事業やサービスを知ったうえで、地域でどのように活用していくことができるのかをまとめていきたい。

今年 2 月に教育委員の方々と社会教育委員の役員とで意見交換をした際に、教育委員からこれら施設を有効に活用するためのトリセツのようなものができるといいのでは、との意見をもらった。3 館のサービスもいろいろあって、知っている人は知っているが、まだまだ知られていないものも多いと感じている。先ほどもハードルが高いという話があったが、地域で何かイベントを企画する時に実際は学校や公民館などに学芸員が出向いて講座を実施している事例があるが、地域団体などが 3 館に相談してみようと思う人は現状少ないのではと思う。

今の美術館の連携事業等についての説明を聞いた感想を各委員からお願いしたい。

○委員

美術館が施設改修に入ると聞いているが、どのような予定になっているか。

○事務局

開館して 34 年が経過し、様々な箇所では改修が必要になってきている。市の公共施設では、長寿命化を図っていくということが求められている。コンクリート造の施設では基本的に耐用年数は 75～76 年と言われており、残り 40 年維持していく必要がある。

そのためにはどのような手を入れていく必要があるのか、現在どの箇所をどの程度改修していくのか等設計を進めていく予定である。まだ具体的な工期は決まっていないが、2 年位かかるものと思われる。改修期間は休館となる。

○委員

中学校でも美術作品展を市民アートギャラリーで実施している。休館中にどこで開催す

るのかという話が校長会でも先日挙がっていた。子どもたちだけでなく、保護者も多く観覧にお越しいただけるイベントなので、継続していきたいと考えている。

○議長

博物館に小・中学校で見学に行くことがあると思うが、それはカリキュラムに入っているものなのか。

○副議長

小学校では、校外学習の一環で博物館や美術館に行っている学校が多いのではないか。

○議長

図書館では分館も含めて、見学や使い方のガイダンスなどで地域の小学校の受け入れをしていたりする。

○委員

美術館は演奏会で利用したり、孫とワークショップに参加したりして利用させていたっている。施設としては市民に開いていただいているとは思いますが、まだ市民にとって敷居が高いと感じている人がいるということが課題かと思う。

美術館では、障がい者向けの事業を展開しているか。

○事務局

企画展では、障がい者向けとはしておらず、どなたでも鑑賞できるようにしている。施設が古いこともあり、完全なバリアフリー化はできていないが、車いすを利用している方でも観覧できる環境になっている。盲・ろう学校向けのワークショップは実施できていない状況である。

○委員

多くの子どもたちに来館してもらい、作品を観てもらうことが施設の活性化に繋がるのではと思う。令和6年度は高校生の参加や利用が少ないのが、残念に感じる。高校生向けの講座等があるといいかもしれない。

○事務局

SNSを活用すると拡散効果もあり、効果的だと感じている。若年層をターゲットに今後SNSの積極的な活用に努めていきたい。

○議長

教育力ネットワークで活動していても小・中学生をターゲットに事業を企画するが、なかなか高校生を対象とした事業は（受験等で）忙しい年代でもあるので、企画できていないということもある。美術が好きな高校生を取り込んだ事業ができるといいのではと思う。

○委員

私は学校運営協議会の委員を務めているが、その会議の間でも公共施設の活用について話題になった。美術館では、P18のスクールプログラムのように市内外の学校を受け入れているが、館から近い学校であれば歩いて観覧に行くことができるわけだが、一方で館から離れている学校はバスを借りたり、路線バスなどを使ったりしないと行くことができないこともあるし、往復にかかる時間の問題も出てくる。

また、ある海外の美術館を訪れた時に、先生が小学生を引率して作品を鑑賞している様子を見た。作品の鑑賞の仕方、距離感、鑑賞するポイントなどを子どもでも分かり易く解説してあげられるといいのではと思う。鑑賞する知識が付けば、自分で絵を描く時にも生きてくると思う。

ひらびあ一つま〜れの活動はこの対話をきっかけにして、美術に関心を持つ方が増えたり、家などで話題にすることで美術館に行ってみようと思う人がいたり、市民との橋渡しの役割を果たしていると思う。

○委員

美術館の敷居が高いという話が出たが、以前図書館でのビブリオバトルのイベントのように参加者がイベントに関わったり、企画したりすることで関心が高まって参加してくれる人が増えていくのではないかと感じる。

美術館施設が気軽に借用できるといいのではとも思う。アトリエは市民に開放されている施設か。

○事務局

美術館の事業で使用していない枠を開放しており、美術館事務室にて利用申し込み（有料）を受け付けている。現在、アトリエは利用率があまり高くない施設なので、創作活動をされる方々にさらに利用していただけるようPRを考えていきたい。

○委員

市民が利用しやすいように市民割引があったり、市外の方より利用しやすい料金設定になっているか。日常的に気楽に利用できる金額設定だと利用しやすいと思う。

○事務局

市内料金としては、市内の個人（団体）のほかに相互利用協定を結んでいる近隣市町は

市内料金で利用いただける。料金設定は 2,000～3,000 円程である。

○副議長

アトリエなどの情報はホームページで公開されているか。

○事務局

美術館ホームページで公開している。

○議長

油絵などにはにおいも強かったり、乾きが遅かったりして、個人宅で描くのは大変なところもあるので、アトリエを気軽に借りられるととても良いと思う。

○委員

ワークショップは人気があり、抽選で参加者が決定しているとのことだが、定員が少ないので仕方ないことかもしれないが、もっと多くの方に参加してもらえるといいのではと思う。美術館では、中学生以下は無料で観覧できると思うが、なかなか気軽に行けるような感じではないと感じている。夏休みや冬休み期間中に美術の宿題ができるような企画があったり、中学生ボランティアの事業などがあるといいのではと思う。

○議長

夏休みなどの長期休暇中に小・中学生を対象とした絵の宿題をお手伝いするような企画はあるか。

○事務局

子ども対象としては、ワークショップまつりがあるが、直接宿題をお手伝いする企画は実施していない状況である。ひらびあーつま〜れのメンバーによる対話型の鑑賞事業を実施しており、子ども達の感性を大切にしながら、会話をして鑑賞のポイントを学ぶ講座を実施している。

○事務局

小学校で絵を鑑賞して感想を書くという宿題が出ていたことがあり、その時期の美術館では彫刻作品しか展示できていないことがあった。平塚市美術館の強みは展示室が2つあることなので、この時の反省を生かして、彫刻のみや絵画のみの展示にならないよう工夫していきたい。

平塚市美術館は全国に先駆けて中学生以下を無料としている。高校生については、一般料金の半額程度とし、土曜日は無料としており、門戸を開いている。また、P17 の教育普

及プログラムの中では、中高生ボランティアが講師となり、ワークショップを開催している。

障がい者との関連では、過去にスタジオクーカ（市内で障害福祉サービス事業を実施している団体）の作家による展覧会を実施している。ワークショップの「おれんじアート」では、認知症の方とその介護をされている方向けのプログラムを実施している。

全国的に美術教育の現状として小・中学校には美術の授業はあるが、高校になると美術の授業がない場合があり、今後の宿題だと思う。

○議長

ワークショップの中高生ボランティアはどのように集めているのか。何人くらいが集まるのか。

○事務局

2週間程度の期間を設けて募集をかけ、集めており、10人前後が集まっている。

○副議長

今までの話を伺っていて感じたことは、まず美術に興味・関心を持ってもらうことが大切だろうと思う。アートカードを使った活動がとても大事だと感じている。自分の感性だけでなく、友達の意見などを共有することで気付きも出てくるだろうと思う。それから実際の作品を鑑賞して、新たに感じることもあるだろうし、または絵の解説を聞くことで作者の意図の理解が深まることもあるんだろうと思う。こういう体験をした子どもが「次はまた別の作品を見たい」と思ってもらえれば、次に繋がっていくのだろう。

学年ごとではなく、異学年が集まったりしてもいいのではと感じた。

○副議長

市民提案の事業（イベント）はあるのか。また、そのような声を聴く窓口等はあるか。

○事務局

展覧会期間中の土日に来館者向けのアンケートを取っている。また、市ホームページ内から御意見や御質問ができるシステムがあり、その中での声を拾い、次の事業に生かしている。

展覧会の御意見の中で「写真を撮りたい」という声をいただくことがある。この場合には、展示する作者と交渉し、許可がもらえるよう努めている。

○副議長

ウェブで市民意見を聞けるシステムはあるか。

○事務局

市ホームページから御意見や御質問ができるシステムがある。これ以外にも直接電話で御意見や御質問をいただくこともあり、適宜対応している。

○委員

中高生ボランティアの話があったが、中高生を育てる取り組みやサークル活動へ誘導するようなことはあるか。

○事務局

中高生ボランティアに紙を配ってアンケートを取ることはしていないが、各自コミュニケーションを取り、意見をもらっている。今後、ボランティアの方へアンケートを取ることも考えていきたい。

○議長

私は中学生の時は美術部だった。顧問の先生から絵を描く色々なアドバイスをもらったことがとても参考になっている。なかなか独学では限界がある。作品を鑑賞する仕方を学ぶことも必要だと思うが、絵を描く上でのアドバイスがもらえる機会があるとさらに美術への興味が深まるのではないかなと思う。

以前、社会教育課の事業で文化公園内にある蒸気機関車のデゴニ（D52）の写生コンクールを実施していた。この事業でも、絵の描き方をレクチャーする内容があれば、もっといいものになったと感じる。美術館でも絵の描き方を学ぶ事業があってもいいのではと思う。

美術館でも様々な素晴らしい事業を展開しているが、市民への認知度がもう一つ足りないのではないかと感じている。学校だけでなく、地域の様々な団体が美術館に相談すれば、美術に関するイベントが実施できるようになるといいのではないかな。例えば、分かり易くメニュー化して周知するなどできるといいと思う。

私は平塚でつくり紙芝居の会で活動しているが、金目エコミュージアムから（平塚盲学校を創設した）秋山博の紙芝居を作って欲しいと依頼されたことがある。地元の出身ではない自分だけで作るのではなく、金目地区の子に入ってもらった方がいいだろうと考えた。金目中学校の美術部の生徒が手を挙げてくれて、紙芝居を描いてもらい、作成することができた。このような相談を美術館にした時にアイデアをもらえたり、誰か紹介してくれるなどしてもらえるといいと思う。

○委員

美術館には学芸員が5名いると聞いているが、学芸員に絵を描く指導など協力いただけ

るものか。

○事務局

学芸員は画家と市民の橋渡しのような役割をしている。学芸員が絵の描き方を指導することは荷が重いと感じる。

○委員

ひらびあ一つま〜れのメンバーは、絵を描く指導などの協力は可能か。

○事務局

ひらびあ一つま〜れのメンバーは、子ども達が作品を見た時の感想を引き出したりするようなボランティアの方々である。学芸員が知識を教える一方通行のものではなく、対話をしながら子どもの考えを引き出すことをしている。絵を描く指導は難しいと思う。

もし絵を描くことを教えるとなると市内の画家にアプローチするなど、別の切り口で考えていく必要があるかもしれない。

○委員

今度、私の地区の自治会で広報誌を発行することになった。内容は、地域住民の方が自由に川柳・俳句・エッセイなどを投稿してもらう形で募集をかけている。自分の作品を掲載して欲しいという声が届いてる。私の周りにも絵を描いたり、写真を撮ったりする人はいるが、日々の活動も発表も公民館止まりになっている人が多い気がする。地区公民館は市内に 25 館あるので、美術館での発表に繋がっていけばいいと思う。

○議長

市内の地区公民館で活動している団体がその公民館での活動や発表に留まるのではなく、それぞれの館の団体を繋ぐ仕組みができるといいと思う。

今後、中央公民館の休館が予定されているが、活動サークルの受け皿として、美術館も可能なものか。

○事務局

現在実施している公民館フェスティバルは、地区公民館の団体が広いホールで発表したいという声からスタートしている経緯がある。以前に比べて発表を希望する団体が年々減ってきており、ピーク時から大幅に減少している。中央公民館休館後の代替施設としては、文化芸術ホールがあるが、施設は広く、施設使用料が相当高くなってしまうなどの課題がある。

地区公民館まつりでも利用団体の発表が減っていることもあるため、まずは地区公民館

まつりでの発表をてこ入れしようということになり、公民館フェスティバルは休止するという方向である。

○事務局

市民アートギャラリーでは、半年単位で抽選になることが多く有料となるが、芸術作品の発表の場の受け皿になり得ると考えている。

(3) 令和7年度社会教育関係団体等への補助金の交付について
事務局から令和7年度社会教育関係団体等への補助金の説明をした。

(4) 今後の予定について

- ・神奈川県社会教育委員連絡協議会の事業について
事務局から総会、研修会、社会教育研究大会神奈川大会のスケジュールについて説明した。
- ・第6回会議について
令和7年8月5日（火）15時00分から 平塚市役所5階519会議室

(5) その他
特になし

以 上